



岡山大学の事情：地域歴史遺産の防災、保全・継承及び「まちづくり」〈報告3〉（第4章 第2回国公立大学フォーラム：「地域歴史文化の保全・継承と広域災害に備えた大学間ネットワークの形成のために」）

今津，勝紀

(Citation)

地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備, 特別研究プロジェクト(平成24年度最終事業報告書):31-33

(Issue Date)

2013-03-31

(Resource Type)

research report

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005291>



報告③

岡山大学の事情 ―地域歴史遺産の防災、保全・継承及び「まちづくり」―

今津 勝紀

(岡山大学)

はじめに

末端教員の個人的見解。

一 岡山大学の地域への眼差し

- 学都研究＝地域総合研究センター（大学と地域の連繋に関する学術研究、地域の創成に必要な不可欠な情報を発信、H23.11.15 AGORA 設立）

地域と医療

地域と教育・スポーツ

まちづくり・地域創生（以上、平成 24 年度の課題）



- 地域総合研究センター専門委員会 研究分野

まちづくり・地域創生（代表：中村良平・社会文化科学研究科教授）

まちづくり・地域創生（代表：氏原岳人・環境生命科学研究科助教）

地域と医療（代表：浜田 淳・医歯薬学総合研究科教授）

地域と教育・スポーツ（代表：高岡敦史・スポーツ教育センター助教）

地域と教育（代表：中富公一・社会文化科学研究科教授）

学都データベース（代表：平野正樹・社会文化科学研究科教授）

※法学・経済学・医学で編成。

- センター・オブ・コミュニティ（COC）構想?????

- 文学部のミッション再定義には「地域と歴史文化」は入っている。

二 地域歴史遺産の防災と継承をめぐる教員の連携

- 文学部の学問

日本史・考古学・美術史＝地域の歴史と文化の保全と継承に多大な貢献

地理学・社会学 etc

岡山史料ネットへの支援（講演会・セミナーの開催 etc）

岡山県立記録資料館との連携 etc

■地域歴史遺産の防災をめぐる学内教員の連携^{*1)}

2003 年度 「GIS を利用した古代地震の復原に関する基礎的研究」(萌芽研究代表：今津勝紀(文)、分担：隈元崇(理))

2005 年度 「災害など緊急時における歴史遺産の保全に関する県内自治体等との連携事業」(平成 17 年度学長裁量経費・地域貢献支援事業費 代表 今津) = 文・法・経・教の教員で構成

2006 年度 「歴史遺産の保全と活用に関するネットワーク・岡山」(平成 18 年度学長裁量経費・地域貢献支援事業費 代表 今津) = 同上

2007 年度 「歴史遺産の保全と活用に関する地域ネットワークの研究」(平成 19 年度文学部プロジェクト研究 代表者 今津勝紀)

三 課題

平成 23 年度申請学長裁量経費「地域歴史遺産に対する防災ネットワークの構築」(日本史・考古学・社会学・日本美術史・気象学・地震学・水文学 etc) は却下。

平成 24 年度「南海地震を前提とした地域歴史遺産(文化財)に対する県内防災ネットワークの構築」はさまざまに使い回されているが、予算措置なし。

防災のための地域歴史遺産のデータベース化の推進(継続中)

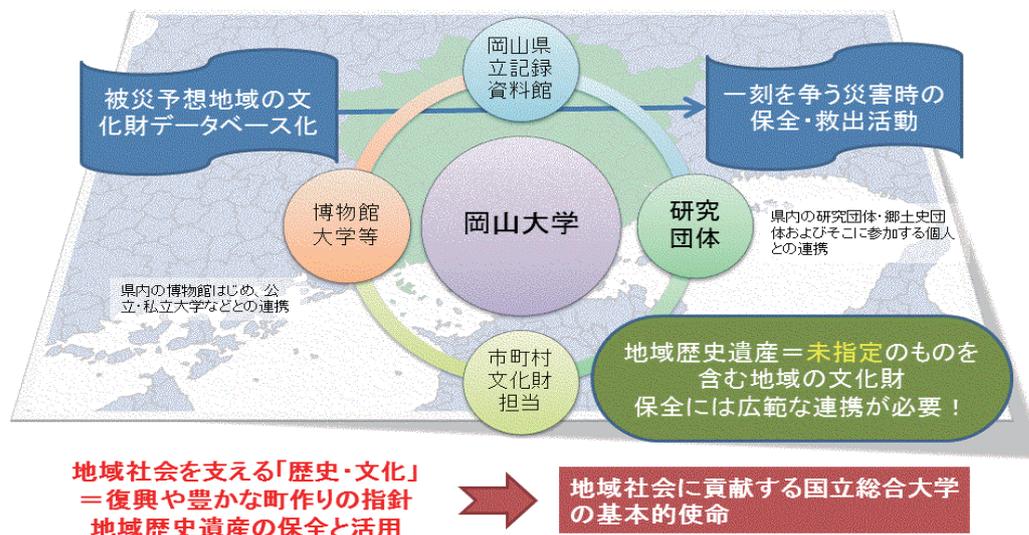
被災予想シミュレーション研究の推進(自主的に継続中)

県外大学・機関との広域連携の構築(これから)

※学内のネットワーク、学外とのネットワークは基本があるのに・・・。

^{*1)} 岡山史料ネットの報告書は以下の通り。『平成十七年度岡山大学学長裁量経費・地域貢献支援事業「災害など緊急時における歴史遺産の保全に関する県内自治体等との連携事業」報告書 岡山史料ネット』二〇〇六年三月、『平成十八年度岡山大学学長裁量経費・地域貢献支援事業「歴史遺産の保全と活用に関するネットワーク・岡山」報告書 岡山史料ネットⅡ』二〇〇七年三月、『岡山大学文学部プロジェクト研究報告書 十三 「歴史遺産の保全と活用をめぐる地域ネットワークに関する研究」 岡山史料ネットⅢ』二〇〇九年九月。

南海地震を前提とした地域歴史遺産（文化財）に対する県内防災ネットワークの構築



報告④

佐賀大学地域学歴史文化研究センターの今後

伊藤 昭弘

(佐賀大学地域学歴史文化研究センター)

佐賀大学地域学歴史文化研究センター（以下「センター」）は、2006年に設立された。その目的は「学問体系としての地域学の創出」という遠大なものだが、現実的に佐賀大学がセンターに求めたのは、法人化にあたり大学の柱のひとつとなった「地域貢献」を人文社会科学・歴史文化面において担うことであった。

筆者および専任・併任教員ほかセンターのスタッフ一同、佐賀地域の歴史文化研究を深化させつつ、「地域貢献」という役割を果たすため尽力し、設立後丸7年で、9度の企画展（自治体との共催）、29冊の刊行物（研究紀要、資料集、目録、報告書、シンポジウム記録など）、7回のシンポジウム（「地域」「地域学」が主なテーマ）、市民向け講座の開催など、たくさんの成果をあげてきたと自負している。ただ今回のテーマである、災害から歴史資料を守るための活動としては、センター設立当初から寄託を受けている「山本家文書」の整理（現在1万2千点ほど終了）のほか、スタッフのもとに個人的に寄せられた情報をもとに行った史料整理があるくらいで、十分な成果をあげているとは言い難い。

センターは、佐賀という地域において歴史文化面における「知」の拠点として、地域の